

自己点検・評価 様式(平成26年度実施)

大学名 岡山大学

研究科・専攻名 大学院医歯薬学総合研究科(生体制御科学専攻、病態制御科学専攻、社会環境科学専攻)

入学定員 医歯薬学全体で128名

○ 入学者数、在籍学生数

※入学のコースを別に設けている大学は、コース別に記載すること。

※「旧4年制薬学部出身」は、平成17年度以前に薬学部に入学者を指す。

・ 入学者数

平成24年度：4名

内訳：6年制薬学部出身 3名（内社会人1名、留学生 名）
4年制薬学部出身 1名（内社会人 名、留学生 名）
旧4年制薬学部出身 名（内社会人 名、留学生 名）
薬学部以外出身 名（内社会人 名、留学生 名）
その他 名

平成25年度：6名

内訳：6年制薬学部出身 1名（内社会人 名、留学生 名）
4年制薬学部出身 5名（内社会人3名、留学生1名）
旧4年制薬学部出身 名（内社会人 名、留学生 名）
薬学部以外出身 名（内社会人 名、留学生 名）
その他 名

平成26年度：3名

内訳：6年制薬学部出身 1名（内社会人1名、留学生 名）
4年制薬学部出身 2名（内社会人2名、留学生 名）
旧4年制薬学部出身 名（内社会人 名、留学生 名）
薬学部以外出身 名（内社会人 名、留学生 名）
その他 名

・ 在籍学生数（平成26年5月1日現在） 13名

○ 「理念とミッション」、「アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー」と実際に行われている教育との整合性

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（博士課程）は、医学・歯学・薬学を基盤とし、研究・教育、先進的医療の中核拠点として貢献する融合型の医療系大学院である。当課程は、国際社会において高く評価されると共に地域社会に広く活用される研究成果の創出を基礎として、創造性豊かな自立した研究者、研究・教育・医療におけるリーダーならびに高度な専門知識と豊かな人間性に基づく倫理観を兼ね備えた医療職業人を養成することを理念およびミッションとしている。

大学院4年制博士課程においては、アドミッションポリシーとして、1. 医学・歯学・薬学の創造的研究、学際的研究、国際的研究を志す人、2. 高度先端医療・全人的医療を志す人、3. 社会人として活躍しながら研究を志す人、を掲げており、この理念に合致する学生を入学させている。

また、カリキュラムポリシーに則り、学部教育において不足する専門的知識や研究技術を学び、それぞれの将来においてスペシャリストになれるような、また、スキルを磨くような教育研究を行う場を提供している。カリキュラム内容は本学の理念とミッションに適合したものとなっており、医歯薬学で展開される講義／演習のすべてを履修することで達成出来るものとなっている。授業科目に関しては、高度な到達度を要求するものとなっている。

ディプロマポリシーに関しても、1. 目的に連結した専門性、2. 情報収集・活用力、3. 社会をリードする行動力、4. 社会での自己実現力 を満たすような教育を実践しているところである。

以上のように、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーは本学医歯薬学総合研究科の理念とミッションに合致しており、それに基づいた教育を実践している。一方、入学者に関しては定員を満たしていない状況が続いている。社会人学生だけでなく、今後は内部進学者や他大学からの進学者が入学するよう、広報活動などを通じて募集に努める。

○ 入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

大学院医歯薬学総合研究科博士課程では、次のような学生を求めています。

- ・ 医学・歯学・薬学の創造的研究、学際的研究、国際的研究を志す人
- ・ 高度先端医療・全人的医療を志す人
- ・ 社会人として活躍しながら研究を志す人

○ 教育課程編成と実施の方針（カリキュラムポリシー）

大学院医歯薬学総合研究科博士課程では、地域から国際社会まで貢献する医療・研究・教育分野として、生体制御科学専攻、病態制御科学専攻、機能再生・再建科学専攻および社会環境生命科学専攻の4専攻を編成し、次のような方針に基づいた教育研究を実施します。

- ・ 医学・歯学・薬学の専門的知識と技能を結集した学際的研究・教育を提供する
- ・ 世界をリードする先端的・独創的研究を実施する
- ・ 科学の進歩に適応しうる問題解決能力、高度で幅広い知識を提供する
- ・ 社会人、留学生に対応したカリキュラムを提供する

○ 学位授与の方針（ディプロマポリシー）

大学院医歯薬学総合研究科博士課程では、次のような学位授与の方針に基づき、自らが研究課題を探究して実施した研究を博士論文に纏め、その研究成果が学術的創造性に富み、かつ本研究科の定める学位授与の水準を満たしていることに加えて、自律した研究遂行能力と相応の広い学識を修得している者に対して博士の学位を授与します。

- ・ 目的に連結した専門性
医学・歯学・薬学に関する幅広い高度な専門知識と技能を身につけている
- ・ 情報収集・活用力
幅広い学術、研究領域の情報を自ら収集・分析し、適切に活用・情報発信できる
- ・ 社会をリードする行動力
グローバル化に対応した国際感覚を有し、自己の専門分野をもって社会をリードする行動ができる
- ・ 社会での自己実現力
生涯に亘って医学・歯学・薬学の発展に寄与する高い学習意欲を持ち、研鑽を積むことができる

- ・ 開設年度の自己点検・評価に記載した「理念とミッション」、「アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー」と、実際に行われている教育との整合性について、4年制薬学部を基礎とした博士課程の教育課程との違いを明確にしつつ、自己点検・評価を行うこと。

○ 入学者選抜の方法

4月入学に関しては年2回（8月および1月）、10月入学に関しては年1回（8月）の受験機会を設けている。

入学者の選抜は、筆記試験、口述試験及び出願書類等を総合して行っている。試験科目は以下の通りである。

筆記試験：英語、専門科目(志望教育研究分野)

口述試験：専門科目(志望教育研究分野)

○ カリキュラムの内容

本学大学院医歯薬学総合研究科がこれまで実績をあげてきた共通コア科目（研究方法論基礎・応用と課題研究）および専門科目により研究手法の修得と論文の作成を行うものである。さらに、学際的な内容に対応出来るように専門科目に「副科目」制を導入し、他の教育研究分野の指導を受ける体制を整えている。

共通コア科目

研究方法論基礎：5単位（2年次まで）

研究方法論応用：4単位（2年次まで）

課題研究：5単位（3年次まで）

専門科目

主科目 講義・演習（所属する教育研究分野）：4単位（2年次まで）

演習・実習（所属する教育研究分野）：8単位（2年次まで）

副科目1 講義・演習（他の教育研究分野）：2単位（1年次）

副科目2 講義・演習（他の教育研究分野）：2単位（2年次）

・別途シラバス及び教育課程等の概要（別紙様式第2号）を添付すること。

・履修モデルを添付すること。

○ 全学生の研究テーマ

- ・小胞体カルシウムトランスポーターに対するケトン体及び塩素イオンの作用メカニズム
- ・抗MRSA薬ダプトマイシンの副作用発現に関するトキシゲニックな調査研究レポートデータを用いたデータベース用
- ・アズトバクチン全合成収率の再現性の検討、およびアズトバクチン中間類縁体とアズトバクチン類縁体
- ・MRSA治療薬の開発に向けた基礎的研究
- ・癌治療におけるメトホルミンの有用性に関する後方視的調査
- ・救急領域における薬剤師のスキルアップトレーニングシステムの構築
- ・がん専門薬剤師の活動による医療の質および医療経済への貢献度の研究
- ・救急領域での薬物法による呼吸器への影響とその予後との関係
- ・救急領域におけるせん妄対策に関する研究
- ・補骨脂成分の研究
- ・急性中毒患者の予後改善に向けた薬学的アプローチ法の検討
- ・救急・集中治療領域における抗菌薬適性使用と薬学的介入の有用性

・一学生あたり30字以内で記載すること。

○ 医療機関・薬局等関連施設と連携した教育・研究内容

本学では、平時より教育研究に関して岡山大学病院薬剤部との連携体制をとっている。

さらに、本学（薬学系）教員が高度救命救急センタースタッフとして院内診療支援体制を敷いており、大学院博士課程と大学病院の連携体制のもと研究推進環境も整えている。

加えて、岡山県薬剤師会会員が運営する複数の保険調剤薬局、岡山市民病院や岡山赤十字病院とも連携し、調査研究を行う予定である。社会人大学院の研究が円滑に進捗するために、当該学生の勤務する病院／薬局と本学が提携し、教育研究施設となるよう承諾を得る予定である。

- ・ 他職種との連携も含む。
- ・ 研究科又は専攻全体の教育研究活動と関連づけて具体的に記載すること。

○ 学位審査体制・修了要件

学位審査体制

学位論文は自著であって、論文の内容が学術雑誌に印刷公表されたもの、又は学術雑誌に投稿中であって、掲載証明書のあるものに限る。

学位論文の形式は、次の項目のいずれかに該当するものとする。

- 一 単著論文
- 二 学術雑誌に公表したいくつかの論文（共著論文を含む）の内容をまとめて、単著論文としたもの
- 三 医歯薬学総合研究科教授会薬学系会議（以下「薬学系会議」という。）で認めた国際的な学術雑誌に掲載された共著論文（但し原則として筆頭筆者でなければならない）又はこれに修正等を加えて、単著論文としたもの
但し、共著論文で学位を申請する場合、1論文1回限りとして、共著者の同意を得たものでなければならない。

修了要件

- ・博士課程に4年以上在学し、30単位以上を修得していること
- ・研究指導を受けていること
- ・学位論文の審査及び最終試験に合格していること

課程修了の基準は、上記の修了に係る要件を満たすものとする。ただし、在学期間に関しては、「岡山大学大学院医歯薬学総合研究科修業年限の特例（4年未満修了）に関する申合せ事項」により承認された者については、当該課程に3年以上在学すれば足りるものとする。

○ 修了者の進路の基本的な考え方(※新規事項)

大学院4年制博士課程においては、地域事情を鑑み、中四国地区においてリーダーとなるような高度な知識を備えた先導的薬剤師の養成を目指している。加えて、薬学部をはじめとする生命科学系教員、製薬会社などで従事する研究者、厚生労働省およびPMDAをはじめとする公的行政機関に将来勤務することを想定し、教育研究を行っている。このように、臨床薬学のみならず医療薬学に関する教育研究を行い、将来リーダーとなる人材の養成を手がけることを目標としている。このようなビジョンに沿って、厚生労働省、PMDAに勤務している博士を有した薬学出身者の講演会などを行い、意識の向上を促した。

- ・ 修了者の進路について大学がどのように考えているか、あるいは進路の開拓についての大学の基本的な考え方等を記載すること。

2 授業科目の概要

<医歯薬学総合研究科 生体制御科学専攻（博士課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通コア科目	研究方法論基礎	1~2	5			5	4	1			兼
	研究方法論基礎	1~2	4			5	4	1			兼
	研究方法論基礎	1~2	3			5	4	1			兼
	研究方法論基礎	1~2	2			5	4	1			兼
	研究方法論応用	1~2	4			4	2				兼
	研究方法論応用	1~2	6			4	2				兼
	研究方法論応用	1~2	2			4	2				兼
	課題研究	1~3	5			16	1		1		兼
	課題研究	1~3	6			16	1		1		兼
	課題研究	1~3	4			16	1		1		兼
	専門研究	1~3	4			2	1		1		兼
	専門研究	1~3	4			2	1		1		兼
専門科目 生体制御科学	薬学系 衛生代謝制御学Ⅰ(講義・演習)	1通		2		1	1				
	衛生代謝制御学Ⅱ(講義・演習)	2通		2		1	1				
	衛生代謝制御学Ⅰ(演習・実習)	1通		4		1	1				
	衛生代謝制御学Ⅱ(演習・実習)	2通		4		1	1				
	生物情報機能学Ⅰ(講義・演習)	1通		2		1			1		
	生物情報機能学Ⅱ(講義・演習)	2通		2		1			1		
	生物情報機能学Ⅰ(演習・実習)	1通		4		1			1		
	生物情報機能学Ⅱ(演習・実習)	2通		4		1			1		
	薬効解析学AⅠ(講義・演習)	1通		2		1					
	薬効解析学AⅡ(講義・演習)	2通		2		1					
	薬効解析学AⅠ(演習・実習)	1通		4		1					
	薬効解析学AⅡ(演習・実習)	2通		4		1					
	薬効解析学BⅠ(講義・演習)	1通		2			1				
	薬効解析学BⅡ(講義・演習)	2通		2			1				
	薬効解析学BⅠ(演習・実習)	1通		4			1				
	薬効解析学BⅡ(演習・実習)	2通		4			1				
選択プログラム	心筋梗塞特論	1通		2		3	1	1			兼
	脳卒中特論	1通		2		3	2	1			兼
	メタボリックシンドローム特論	1通		2		3	1	1			兼
	アンチエイジング特論(医学)	1通		2		1	1				兼
	基礎統計学	1通		2							兼
	社会疫学(基礎)	1通		2							兼
	社会疫学(応用)	1通		2							兼
	マルチレベル解析学	1通		2							兼
	ライフサイエンス入門	1通		2		4		1			兼
	老年医学・緩和医療特論Ⅰ	1通		2							兼
	老年医学・緩和医療特論Ⅱ	1通		2							兼
	口腔ケア・摂食嚥下機能評価・栄養学	1通		2							兼
選択科目(薬学系副科目)	ケミカルバイオロジーⅠ	1通		2							兼
	ケミカルバイオロジーⅡ	2通		2							兼
	生物活性有機分子設計学Ⅰ	1通		2							兼
	生物活性有機分子設計学Ⅱ	2通		2							兼
	精密合成設計学Ⅰ	1通		2							兼
	精密合成設計学Ⅱ	2通		2							兼
	合成医薬品開発学Ⅰ	1通		2							兼
	合成医薬品開発学Ⅱ	2通		2							兼
	薬用天然物化学Ⅰ	1通		2							兼
	薬用天然物化学Ⅱ	2通		2							兼
	医薬品機能分析学Ⅰ	1通		2							兼
	医薬品機能分析学Ⅱ	2通		2							兼
	生体膜と薬物の相互作用特論Ⅰ	1通		2							兼
	生体膜と薬物の相互作用特論Ⅱ	2通		2							兼
	応用生物薬剤学Ⅰ	1通		2							兼
	応用生物薬剤学Ⅱ	2通		2							兼
	微生物医薬品学Ⅰ	1通		2							兼
	微生物医薬品学Ⅱ	2通		2							兼
生体応答制御学Ⅰ	1通		2							兼	
生体応答制御学Ⅱ	2通		2							兼	
生体分子解析学Ⅰ	1通		2							兼	
生体分子解析学Ⅱ	2通		2							兼	
がんブローフェッショナルコース専門科目	がんブローフェッショナル科目 悪性腫瘍の管理と治療	1-2通		1		1					兼
	医療倫理と法律的・経済的問題	1-2通		0.5							兼
	医療対話学(コミュニケーションスキル)	1-2通		0.5		1					兼
	がんチーム医療実習	1-2通		0.5							兼
	医療情報学	1-2通		0.5							兼
目がん専	がんのベーシックサイエンス・臨床薬理学	1-2通		1		1					兼

目	門 医 ・ 薬 劑 師 共 通 科	がん臨床検査・病理診断・放射線診断学	1・2通	0.5							兼	
		臓器別がん治療各論	1・2通	2		1					兼	
		がん緩和治療	1・2通	0.5							兼	
系 科 目 へ 選 修 専 門	臨 床 薬 理 学 専 門	がん治療修練	1・2通	1							兼	
		がん専門薬剤師特論	1・2通	2							兼	
		がん薬物治療実技演習	1・2通	1							兼	
		集学的治療薬特論	1・2通	2							兼	
		臨床薬理学特論	1・2通	2							兼	
ス 分 子 生 物 学 専 門 教 育 コ ー ス	分 子 生 物 学 専 門 教 育 コ ー ス	PET科学アカデミー	1通	2							兼	
		分子イメージング科学（講義・演習）	1・2通	2								兼
		分子イメージング科学（演習・実習）	1・2通	4								兼
運 医 学 専 門 教 育 コ ー ス	運 医 学 専 門 教 育 コ ー ス	総合感染症学（講義・演習）	1～4通	2							兼	
		総合感染症学（演習・実習）	1～4通	4							兼	
		長寿医療科学（講義・演習）	1～4通	2							兼	
		長寿医療科学（演習・実習）	1～4通	4							兼	
		レギュラトリーサイエンス学（講義・演習）	1～4通	2							兼	
		レギュラトリーサイエンス学（演習・実習）	1～4通	4							兼	
		実践総合診療学（講義・演習）	1～4通	2							兼	
		実践総合診療学（演習・実習）	1～4通	4							兼	
		総合循環器病学（講義・演習）	1～4通	2			1				兼	
総合循環器病学（演習・実習）	1～4通	4			1				兼			

- (注) ・ 設置計画書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・ 設置時の授業科目全て（兼任、兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時（平成26年度に設置された大学等は設置時）より変更されているものは赤字で見え直し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消のまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼○」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。（今後審査を受ける場合には、「平成○年○月 提出予定」と記入してください。）
 - ・ 「記当年次」について、設置計画時に開講時期を記入する必要がなかった学部等（平成19年度設置以前）についても、設置時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え直し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

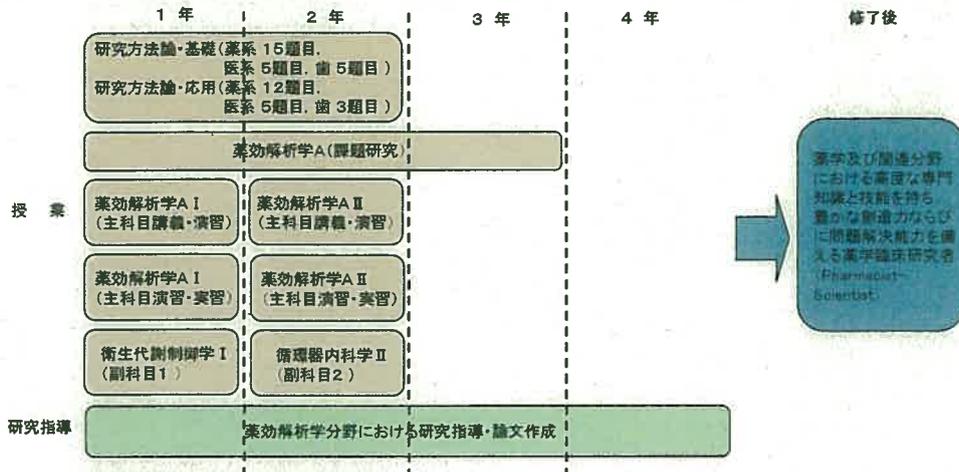
(3)各コースにおける履修のモデル例

A. 一般コース

a) 養成する人材像;薬学臨床研究者

教育研究分野を薬効解析学とした場合を例に挙げた。

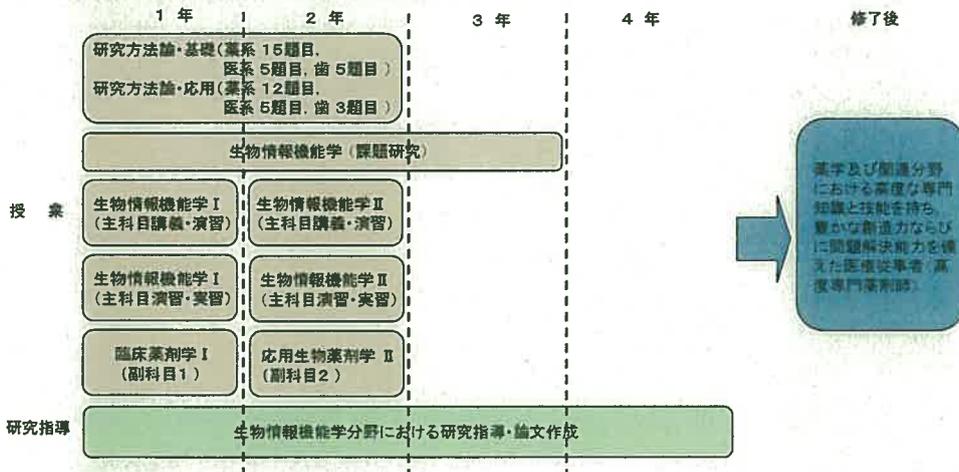
共通コア科目(研究方法論基礎・応用並びに課題研究)と専門科目の主科目により薬学臨床研究者に必要とされる課題探求能力及び問題解決能力を重点的に養う。副科目1としては同一専攻内薬学系の衛生代謝制御学を、副科目2としては同一専攻内医学系の循環器内科学を履修する。研究方法論基礎・応用並びに課題研究のセミナー、専門科目である副科目2で歯医学系教員担当の授業を受講することにより融合型教育を受け、薬学臨床研究者に必要な薬学のみならず他の医療系における高度な専門知識と技能を身につけることが可能となる。



b) 養成する人材像;医療従事者(高度専門薬剤師)

教育研究分野を生物情報機能学とした場合を例に挙げた。

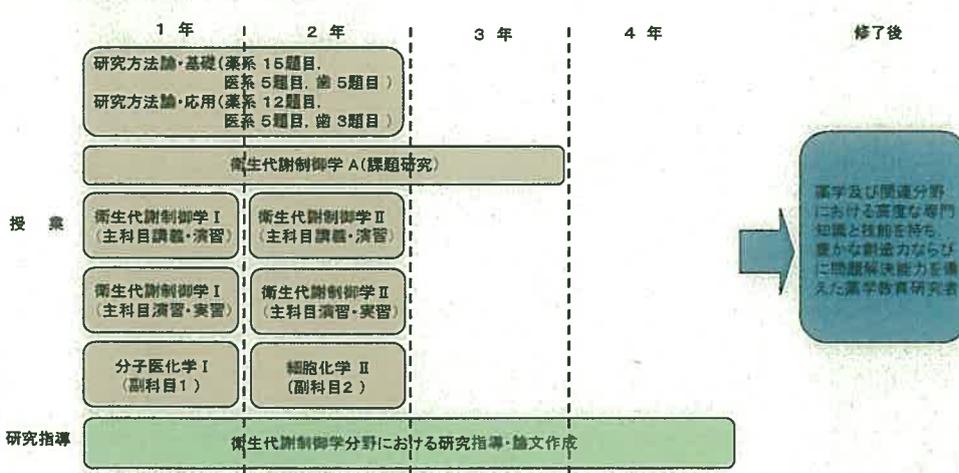
共通コア科目と専門科目の主科目により高度専門薬剤師に必要とされる課題探求能力及び問題解決能力を重点的に養う。副科目1としては病態制御科学専攻内医学系の臨床薬剤学を、副科目2としては博士後期課程薬科学専攻の応用生物薬剤学を履修する。研究方法論基礎・応用並びに課題研究のセミナー、専門科目である副科目1で歯医学系教員担当の授業を受講することにより融合型教育を受け、医療従事者(高度専門薬剤師)に必要な薬学のみならず他の医療系における高度な専門知識と技能を身につけることが可能となる。



c) 養成する人材像;薬学教育研究者

教育研究分野を衛生代謝制御学とした場合を例に挙げた。

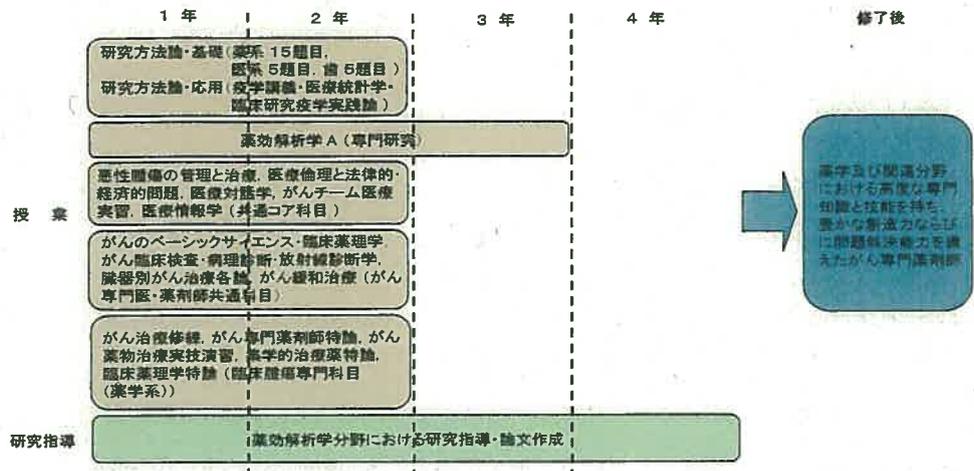
共通コア科目と専門科目の主科目により薬学教育研究者に必要とされる課題探求能力及び問題解決能力を重点的に養う。副科目1としては同一専攻内医学系の分子医化学を、副科目2としては病態制御科学専攻医学系の細胞化学を履修する。研究方法論基礎・応用並びに課題研究のセミナー、専門科目である副科目1, 2で歯医学系教員担当の授業を受講することにより融合型教育を受け、薬学教育研究者に必要な薬学のみならず他の医療系における高度な専門知識と技能を身につけることが可能となる。



B. がんプロフェッショナルコース(薬学系)

教育研究分野を薬効解析学とした場合を例に挙げた。

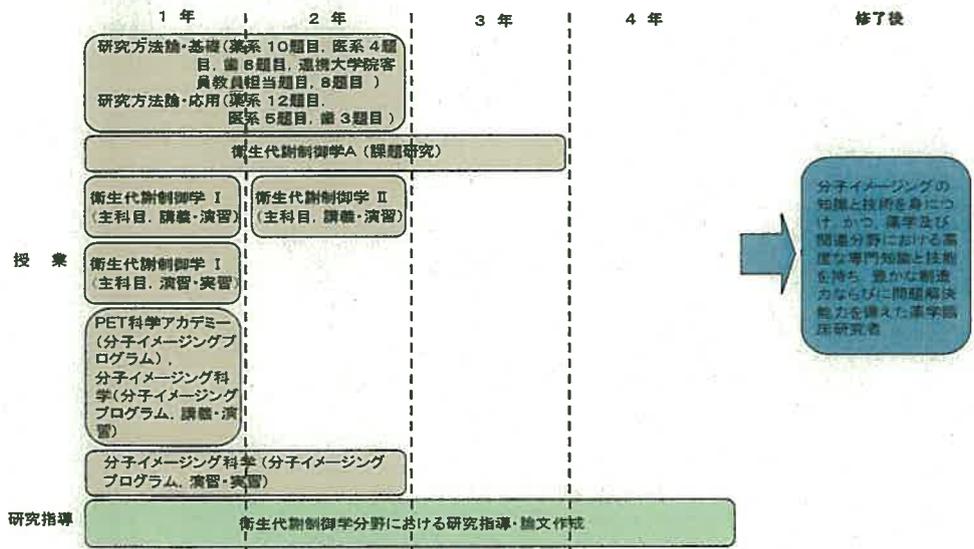
本コースでは専門研究によりそれぞれの専攻の人材養成目的に合致した研究を実施するとともに、臨床腫瘍専門科目(薬学系)、がん専門医・薬剤師共通科目及びその他のコア科目等を履修し、学位及びがん専門薬剤師の資格の取得を目指す。研究方法論及び専門研究により課題探求能力及び問題解決能力を養うと共に、がん専門薬剤師育成に特化したカリキュラムを履修することにより、専門職に必要な専門的臨床能力、チーム医療や臨床研究の能力をも身に付けることが可能となる。



C. 分子イメージング教育コース

教育研究分野を衛生代謝制御学とした場合を例に挙げた。

共通コア科目と専門科目により薬学臨床研究者に必要なとされる課題探求能力及び問題解決能力を重点的に養う。また、研究方法論基礎・応用並びに課題研究のセミナーで医歯学系教員担当の授業を受講することにより融合型教育を実施し、薬学臨床研究者に必要な薬学のみならず他の医療系における高度な専門知識と技能を身につけ、これに加えて、分子イメージングプログラムにより分子イメージングの知識と技術を修得することが可能となる。



卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<p>・修了要件は、4年以上在学し、必修科目14単位(共通コア科目:研究方法論基礎5単位, 研究方法論応用4単位, 課題研究5単位), 選択科目16単位以上(主科目:所属する教育研究分野の講義・演習4単位, 所属する教育研究分野の演習・実習8単位, 副科目:他の教育研究分野の講義・演習又は選択プログラム4単位)を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、研究科の行う学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。(一般コース)</p>		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週
<p>・がんプロフェッショナルコース(薬学系)を履修する者は、必修科目30単位(共通コア科目:研究方法論基礎5単位, 研究方法論応用6単位, 専門研究4単位, がんプロ共通コア科目3単位, がん専門医・薬剤師共通科目4単位, 臨床腫瘍専門科目(薬学系)8単位)を修得すること。</p>		1時限の授業時間	90分 ※1
<p>・分子イメージング教育コースを履修する者は、必修科目22単位(共通コア科目:研究方法論基礎5単位, 研究方法論応用4単位, 課題研究5単位, 分子イメージング教育コース専門科目8単位), 選択科目3単位以上(所属する教育研究分野の講義・演習4単位, 所属する教育研究分野の演習・実習4単位)を修得すること。</p>			

※1
 ○次の授業科目については、135分授業で実施。
 ・研究方法論基礎 5単位 一般コース
 がんプロフェッショナルコース(医学系)
 がんプロフェッショナルコース(薬学系)
 分子イメージング教育コース
 ・研究方法論基礎 3単位 臨床専門医コース(医学系)
 ・研究方法論基礎 2単位 臨床専門医コース(歯学系)
 ・研究方法論応用 4単位 一般コース
 分子イメージング教育コース
 ・研究方法論応用 2単位 臨床専門医コース(歯学系)

2 授業科目の概要

<医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻（博士課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通コア科目	研究方法論基礎	1~2	5			5	3				兼	
	研究方法論基礎	1~2	4			5	3				兼	
	研究方法論基礎	1~2	3			5	3				兼	
	研究方法論基礎	1~2	2			5	3				兼	
	研究方法論応用	1~2	4			6	6				兼	
	研究方法論応用	1~2	6			6	6				兼	
	研究方法論応用	1~2	2			6	6				兼	
	課題研究	1~3	5			22	9		3		兼	
	課題研究	1~3	6			22	9		3		兼	
	課題研究	1~3	4			22	9		3		兼	
専門研究	1~3	4			5	9				兼		
専門科目	薬学系 病態制御科学	薬物療法設計学Ⅰ(講義・演習)	1通		2			1				
		薬物療法設計学Ⅱ(講義・演習)	2通		2				1			
		薬物療法設計学Ⅰ(演習・実習)	1通		4			1				
		薬物療法設計学Ⅱ(演習・実習)	2通		4				1			
		製剤設計評価学Ⅰ(講義・演習)	1通		2				1			
		製剤設計評価学Ⅱ(講義・演習)	2通		2				1			
		製剤設計評価学Ⅰ(演習・実習)	1通		4				1			
		製剤設計評価学Ⅱ(演習・実習)	2通		4				1			
		医薬品安全性学Ⅰ(講義・演習)	1通		2					2		
		医薬品安全性学Ⅱ(講義・演習)	2通		2					2		
		医薬品安全性学Ⅰ(演習・実習)	1通		4					2		
		医薬品安全性学Ⅱ(演習・実習)	2通		4					2		
		医薬品臨床評価学AⅠ(講義・演習)	1通		2						1	
		医薬品臨床評価学AⅡ(講義・演習)	2通		2						1	
		医薬品臨床評価学AⅠ(演習・実習)	1通		4						1	
		医薬品臨床評価学AⅡ(演習・実習)	2通		4						1	
		医薬品臨床評価学BⅠ(講義・演習)	1通		2							1
		医薬品臨床評価学BⅡ(講義・演習)	2通		2							1
		医薬品臨床評価学BⅠ(演習・実習)	1通		4							1
		医薬品臨床評価学BⅡ(演習・実習)	2通		4							1
		医薬品臨床評価学CⅠ(講義・演習)	1通		2			1	1			1
		医薬品臨床評価学CⅡ(講義・演習)	2通		2			1	1			1
		医薬品臨床評価学CⅠ(演習・実習)	1通		4			1	1			1
医薬品臨床評価学CⅡ(演習・実習)	2通		4			1	1			1		
臨床病態診断学Ⅰ(講義・演習)	1通		2			2	2					
臨床病態診断学Ⅱ(講義・演習)	2通		2			2	2					
臨床病態診断学Ⅰ(演習・実習)	1通		4			2	2					
臨床病態診断学Ⅱ(演習・実習)	2通		4			2	2					
救急薬学Ⅰ(講義・演習)	1通		2			1	1					
救急薬学Ⅱ(講義・演習)	2通		2			1	1					
救急薬学Ⅰ(演習・実習)	1通		4			1	1					
救急薬学Ⅱ(演習・実習)	2通		4			1	1					
選択プログラム	心筋梗塞特論	1通		2				2				兼
	脳卒中特論	1通		2								兼
	メタボリックシンドローム特論	1通		2				2	2			兼
	アンチエイジング特論(医学)	1通		2				2	1			兼
	基礎統計学	1通		2								兼
	社会疫学(基礎)	1通		2								兼
	社会疫学(応用)	1通		2								兼
	マルチレベル解析学	1通		2								兼
	ライフサイエンス入門	1通		2								兼
	老年医学・緩和医療特論Ⅰ	1通		2								兼
	老年医学・緩和医療特論Ⅱ	1通		2								兼
口腔ケア・摂食嚥下機能評価・栄養学	1通		2			1					兼	
選択科目(薬学系副科目)	ケミカルバイオロジー学Ⅰ	1通		2								兼
	ケミカルバイオロジー学Ⅱ	2通		2								兼
	生物活性有機分子設計学Ⅰ	1通		2								兼
	生物活性有機分子設計学Ⅱ	2通		2								兼
	精密合成設計学Ⅰ	1通		2								兼
	精密合成設計学Ⅱ	2通		2								兼
	合成医薬品開発学Ⅰ	1通		2								兼
	合成医薬品開発学Ⅱ	2通		2								兼
	薬用天然物化学Ⅰ	1通		2								兼
	薬用天然物化学Ⅱ	2通		2								兼
	医薬品機能分析学Ⅰ	1通		2								兼
	医薬品機能分析学Ⅱ	2通		2								兼
	生体膜と薬物の相互作用特論Ⅰ	1通		2								兼
	生体膜と薬物の相互作用特論Ⅱ	2通		2								兼
	応用生物薬剤学Ⅰ	1通		2								兼
	応用生物薬剤学Ⅱ	2通		2								兼
	微生物医薬品学Ⅰ	1通		2								兼
微生物医薬品学Ⅱ	2通		2								兼	

		生体応答制御学Ⅰ	1通		2								兼	
		生体応答制御学Ⅱ	2通		2								兼	
		生体分子解析学Ⅰ	1通		2								兼	
		生体分子解析学Ⅱ	2通		2								兼	
がん プロ フェ ッ シ ョ ナ ル コ ー ス 専 門 科 目	がん プロ 共 通 コ ー ス 科 目	悪性腫瘍の管理と治療	1・2通		1		3 4						兼	
		医療倫理と法律的・経済的問題	1・2通		0.5		1						兼	
		医療対話学（コミュニケーションスキル）	1・2通		0.5								兼	
		がんチーム医療実習	1・2通		0.5		1						兼	
		医療情報学	1・2通		0.5								兼	
	目 的 系 科 目 （ 薬 理 学 専 門 科 目）	がんのベーシックサイエンス・臨床薬理学	1・2通		1		2 1							兼
		がん臨床検査・病理診断・放射線診断学	1・2通		0.5									兼
		臓器別がん治療各論	1・2通		2		3							兼
		がん緩和治療	1・2通		0.5		1							兼
		がん治療修練	1・2通		1									兼
系 科 目 （ 薬 理 学 専 門 科 目）	がん専門薬剤師特論	1・2通		2									兼	
	がん薬物治療実技演習	1・2通		1									兼	
	薬学的治療薬特論	1・2通		2									兼	
	臨床薬理学特論	1・2通		2									兼	
	臨床薬理学特論	1・2通		2									兼	
科 目 （ 分 子 生 物 学 専 門 科 目）	PET科学アカデミー	1通		2									兼	
	分子イメージング科学（講義・演習）	1通		2									兼	
	分子イメージング科学（演習・実習）	1～2		4									兼	
連 携 大 学 院 科 目	総合感染症学（講義・演習）	1～4通		2									兼	
	総合感染症学（演習・実習）	1～4通		4									兼	
	長寿医療科学（講義・演習）	1～4通		2									兼	
	長寿医療科学（演習・実習）	1～4通		4									兼	
	レギュラトリーサイエンス学（講義・演習）	1～4通		2									兼	
	レギュラトリーサイエンス学（演習・実習）	1～4通		4									兼	
	実践総合診療学（講義・演習）	1～4通		2									兼	
	実践総合診療学（演習・実習）	1～4通		4									兼	
	総合循環器病学（講義・演習）	1～4通		2									兼	
	総合循環器病学（演習・実習）	1～4通		4									兼	

- (注) ・ 設置計画書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・ 設置時の授業科目全て（兼任、兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時（平成26年度に設置された大学等は設置時）より変更されているものは赤字で見え直し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼○」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。（今後審査を受ける場合には、「平成○年○月 提出予定」と記入してください。）
 - ・ 「配当年次」について、設置計画時に開講時期を記入する必要がなかった学部等（平成19年度設置以前）についても、設置時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え直し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 教育課程の特色

本博士課程における教育課程の特色は、平成13年度からの本学大学院医歯学総合研究科並びにこれに続く平成17年度からの大学院医歯薬学総合研究科がこれまでに実績をあげてきた共通コア科目(研究方法論基礎・応用と課題研究)を、6年制薬学部出身学生が合流し参画する改組課程においても同様にコアカリキュラムと位置付け、これらと専門科目中の主科目の講義・演習・実習により先端的研究方法を習得させ、課題探求能力及び問題解決能力を重点的に養う点にある。また、共通コア科目中の研究方法論基礎・応用及び専門科目中の副科目で他専攻及び医歯学系を含む他の教育研究分野の授業科目を履修することにより、医歯薬学融合型である本研究科の特色を十分生かした学際型教育を達成できることも特色の一つである。

既存カリキュラムは、総合研究科博士課程として博士(医学)、博士(歯学)並びに博士(学術)を授与するに必要十分なものと編成され、これまでの6年間に大きな実績を上げてきた。今回、授与する学位として博士(薬学)を加えるに当たり、この既存カリキュラムの骨格を大きく変えることなく引継ぎ、授業科目あるいはその中の題目として博士(薬学)の取得を目指す学生にとって要求の高いものを新たに追加することで対応するべきと判断している。すなわち、「研究方法論基礎」、「研究方法論応用」の関連科目、「課題研究」授業科目および「専門科目」の数を薬学系を中心として増やし、博士(薬学)の取得を目指す学生にとって必要十分なものを設定する。一方、これらは医学系及び歯学系の学生も受講可能であり、双方にとって極めて有益かつ有効な改善手法となっている。あえてカリキュラムの基本構造を変更しないことにより、薬学系を中心とした改組に伴い、医学系ならびに歯学系にとって副科目の選択など双方向に授業乗り入れが可能となる。これこそが総合研究科のあるべき姿であり、3つの学系の総合的かつ学際的教育・研究を推進させることになる。

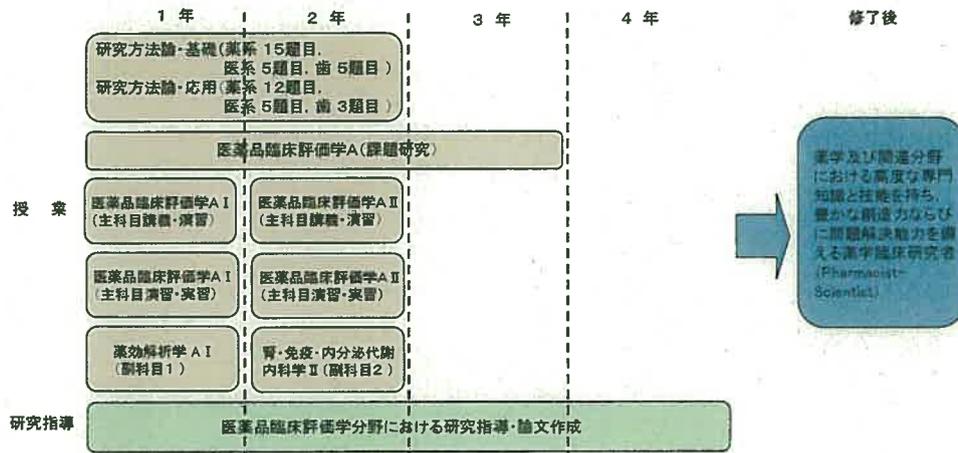
(3) 各コースにおける履修のモデル例

A. 一般コース

a) 養成する人材像: 薬学臨床研究者

教育研究分野を医薬品臨床評価学とした場合を例に挙げた。

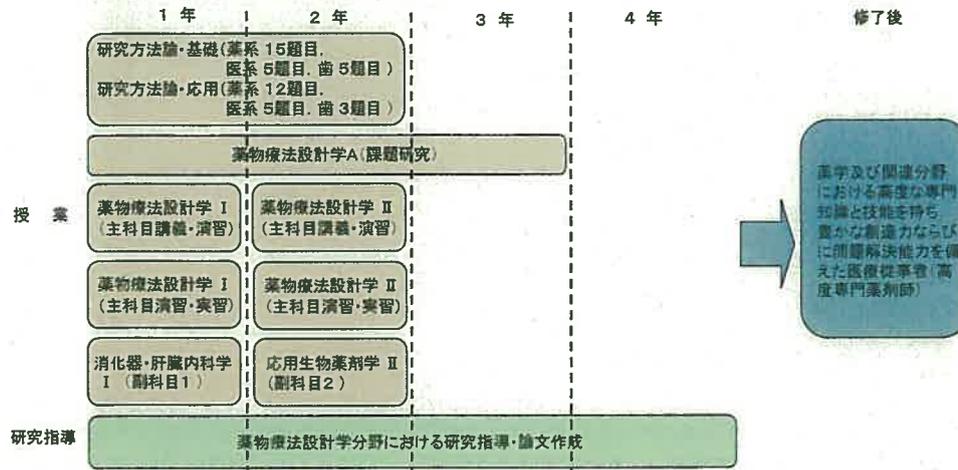
共通コア科目(研究方法論基礎・応用並びに課題研究)と専門科目の主科目により薬学臨床研究者に必要な課題探求能力及び問題解決能力を重点的に養う。副科目1としては生体制御科学専攻内薬学系の薬効解析学を、副科目2としては同一専攻内医学系の腎・免疫・内分泌代謝内科学を履修する。研究方法論基礎・応用並びに課題研究のセミナー、専門科目である副科目2で医歯学系教員担当の授業を受講することにより融合型教育を受け、薬学臨床研究者に必要な薬学のみならず他の医療系における高度な専門知識と技能を身につけることが可能となる。



b) 養成する人材像: 医療従事者(高度専門薬剤師)

教育研究分野を薬物療法設計学とした場合を例に挙げた。

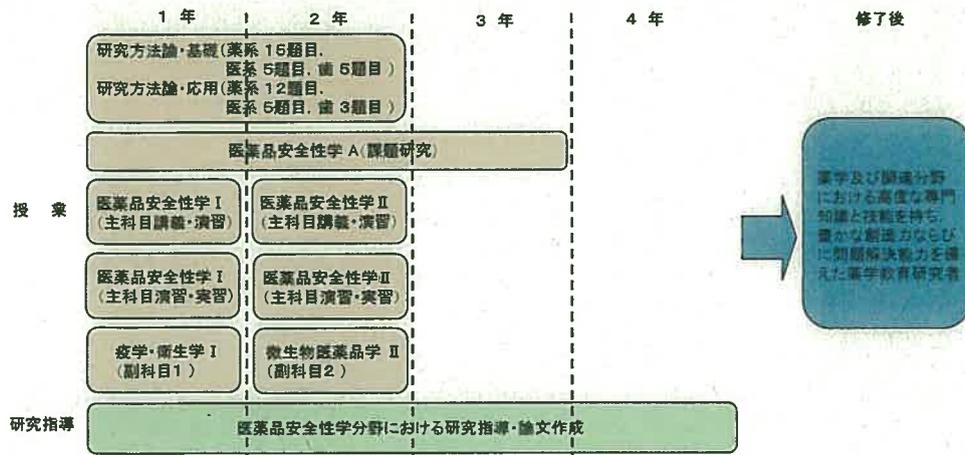
共通コア科目と専門科目の主科目により高度専門薬剤師に必要な課題探求能力及び問題解決能力を重点的に養う。副科目1としては同一専攻内医学系の消化器・肝臓内科学を、副科目2としては博士後期課程薬科学専攻の応用生物薬剤学を履修する。研究方法論基礎・応用並びに課題研究のセミナー、専門科目である副科目1で医歯学系教員担当の授業を受講することにより融合型教育を受け、医療従事者(高度専門薬剤師)に必要な薬学のみならず他の医療系における高度な専門知識と技能を身につけることが可能となる。



c) 養成する人材像: 薬学教育研究者

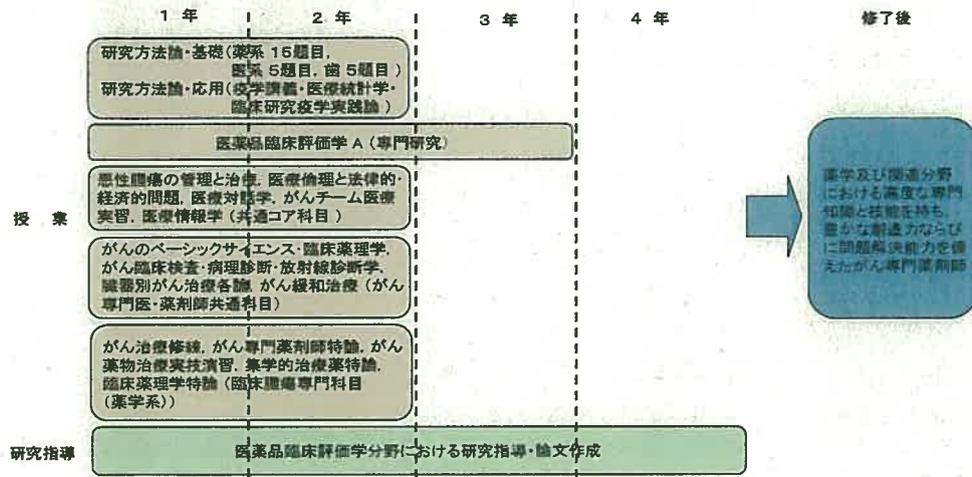
教育研究分野を医薬品安全性学とした場合を例に挙げた。

共通コア科目と専門科目の主科目により薬学教育研究者に必要な課題探求能力及び問題解決能力を重点的に養う。副科目1としては同一専攻内医学系の疫学・衛生学を、副科目2としては博士後期課程薬科学専攻の微生物薬品学を履修する。研究方法論基礎・応用並びに課題研究のセミナー、専門科目である副科目1で医歯学系教員担当の授業を受講することにより融合型教育を受け、薬学教育研究者に必要な薬学のみならず他の医療系における高度な専門知識と技能を身につけることが可能となる。



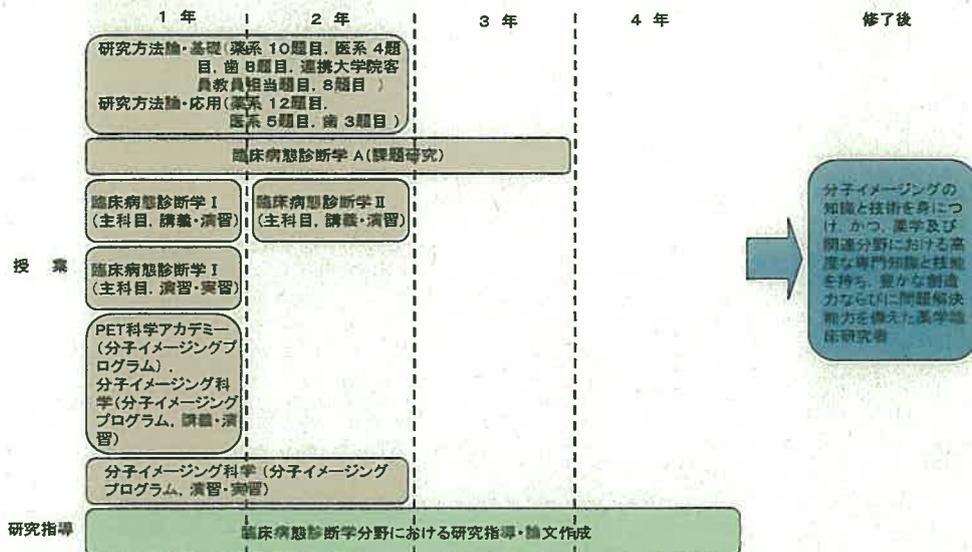
B. がんプロフェッショナルコース(薬学系)

教育研究分野を医薬品臨床評価学とした場合を例に挙げた。
 本コースでは専門研究によりそれぞれの専攻の人材養成目的に合致した研究を実施するとともに、臨床腫瘍専門科目(薬学系)、がん専門医・薬剤師共通科目及びその他のコア科目等を履修し、学位及びがん専門薬剤師の資格の取得を目指す。
 研究方法論及び専門研究により課題探求能力及び問題解決能力を養うと共に、がん専門薬剤師育成に特化したカリキュラムを履修することにより、専門職に必要な専門的臨床能力、チーム医療や臨床研究の能力をともに身につけることが可能となる。



C. 分子イメージング教育コース

教育研究分野を臨床病態診断学とした場合を例に挙げた。
 共通コア科目と専門科目の主科目により薬学臨床研究者に必要な課題探求能力及び問題解決能力を重点的に養う。また、研究方法論基礎・応用並びに課題研究のセミナーで医学学系教員担当の授業を受講することにより融合型教育を実施し、薬学臨床研究者に必要な薬学のみならず他の医療系における高度な専門知識と技能を身につけ、これに加えて、分子イメージングプログラムにより分子イメージングの知識と技術を修得することが可能となる。



2 授業科目の概要

<医歯薬学総合研究科 社会環境生命科学専攻（博士課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通コア科目	研究方法論基礎	1~2	5			4	0	1			兼
	研究方法論基礎	1~2	4			4	0	1			兼
	研究方法論基礎	1~2	3			4		1			兼
	研究方法論基礎	1~2	2			4		1			兼
	研究方法論応用	1~2	4			2		1			兼
	研究方法論応用	1~2	6			2		1			兼
	研究方法論応用	1~2	2			2		1			兼
	課題研究	1~3	5			14	1		2		兼
	課題研究	1~3	6			14	1		2		兼
	課題研究	1~3	4			14	1		2		兼
専門科目	衛生微生物化学Ⅰ(講義・演習)	1通		2							兼
社会環境生命科学	衛生微生物化学Ⅱ(講義・演習)	2通		2							兼
薬学系	衛生微生物化学Ⅰ(演習・実習)	1通		4							兼
	衛生微生物化学Ⅱ(演習・実習)	2通		4							兼
	医薬品分子標的学Ⅰ(講義・演習)	1通		2		1		1			兼
	医薬品分子標的学Ⅱ(講義・演習)	2通		2		1		1			兼
	医薬品分子標的学Ⅰ(演習・実習)	1通		4		1		1			兼
	医薬品分子標的学Ⅱ(演習・実習)	2通		4		1		1			兼
	構造生物薬学Ⅰ(講義・演習)	1通		2		1		1			兼
	構造生物薬学Ⅱ(講義・演習)	2通		2		1		1			兼
	構造生物薬学Ⅰ(演習・実習)	1通		4		1		1			兼
	構造生物薬学Ⅱ(演習・実習)	2通		4		1		1			兼
選択プログラム	心筋梗塞特論	1通		2				1			兼
	脳卒中特論	1通		2							兼
	メタボリックシンドローム特論	1通		2		1					兼
	アンチエイジング特論(医学)	1通		2		1	1				兼
	基礎統計学	1通		2				1			兼
	社会疫学(基礎)	1通		2				1			兼
	社会疫学(応用)	1通		2				1			兼
	マルチレベル解析学	1通		2				1			兼
	ライフサイエンス入門	1通		2		1	1				兼
	老年医学・緩和医療特論Ⅰ	1通		2		2					兼
	老年医学・緩和医療特論Ⅱ	1通		2		1					兼
	口腔ケア・摂食嚥下機能評価・栄養学	1通		2		1					兼
	選択科目(薬学系副科目)	ケミカルバイオロジーⅠ	1通		2						
ケミカルバイオロジーⅡ		2通		2							兼
生物活性有機分子設計Ⅰ		1通		2							兼
生物活性有機分子設計Ⅱ		2通		2							兼
精密合成設計Ⅰ		1通		2							兼
精密合成設計Ⅱ		2通		2							兼
合成医薬品開発Ⅰ		1通		2							兼
合成医薬品開発Ⅱ		2通		2							兼
薬用天然物化学Ⅰ		1通		2							兼
薬用天然物化学Ⅱ		2通		2							兼
医薬品機能分析Ⅰ		1通		2							兼
医薬品機能分析Ⅱ		2通		2							兼
生体膜と薬物の相互作用特論Ⅰ		1通		2							兼
生体膜と薬物の相互作用特論Ⅱ		2通		2							兼
応用生物薬剤学Ⅰ		1通		2							兼
応用生物薬剤学Ⅱ		2通		2							兼
微生物医薬品Ⅰ		1通		2							兼
微生物医薬品Ⅱ		2通		2							兼
生体応答制御学Ⅰ		1通		2							兼
生体応答制御学Ⅱ		2通		2							兼
生体分子解析学Ⅰ		1通		2							兼
生体分子解析学Ⅱ	2通		2							兼	
がんブローフェッショナルコース専門科目	がんブロー共通コア科目	悪性腫瘍の管理と治療	1-2通		1						兼
		医療倫理と法律的・経済的問題	1-2通		0.5		2				兼
		医療対話学(コミュニケーションスキル)	1-2通		0.5						兼
		がんチーム医療実習	1-2通		0.5						兼
		医療情報学	1-2通		0.5						兼
	目師医が共通薬専科科目	がんのベーシックサイエンス・臨床薬理学	1-2通		1		1				兼
系科臨床腫瘍学専門	がん臨床検査・病理診断・放射線診断学	1-2通		0.5							兼
	腫瘍別がん治療各論	1-2通		2							兼
	がん緩和治療	1-2通		0.5							兼
	がん治療修練	1-2通		1							兼
	がん専門薬剤師特論	1-2通		2							兼
	がん薬物治療実技演習	1-2通		1							兼
科スインメ分目専コグ子門ノ教ジイ	臨床薬理学特論	1-2通		2							兼
	PET科学アカデミー	1通		2							兼
	分子イメージング科学(講義・演習)	1通		2							兼
	分子イメージング科学(演習・実習)	1~2		4							兼

連携 大学 院 科 目	総合感染症学（講義・演習）	1～4通	2									兼
	総合感染症学（演習・実習）	1～4通	4									兼
	長寿医療科学（講義・演習）	1～4通	2									兼
	長寿医療科学（演習・実習）	1～4通	4									兼
	レギュラトリーサイエンス学（講義・演習）	1～4通	2									兼
	レギュラトリーサイエンス学（演習・実習）	1～4通	4									兼
	実践総合診療学（講義・演習）	1～4通	2									兼
	実践総合診療学（演習・実習）	1～4通	4		1			1				兼
	総合循環器病学（講義・演習）	1～4通	2									兼
	総合循環器病学（演習・実習）	1～4通	4									兼

- (注) ・ 設置計画書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成26年度に設置された大学等は設置時)より変更されているものは赤字で見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼○」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成○年○月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置計画時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度設置以前)についても、設置時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

科目区分		授業科目	単位数	
			必修	選択
共通コア科目		研究方法論基礎(10題目(注1)以上)	5	
		研究方法論応用(10題目(注1)以上)	4	
		課題研究	5	
専門科目	主科目	講義・演習(所属する教育研究分野)		4
		演習・実習(所属する教育研究分野)		8
	副科目 1	講義・演習(他の教育研究分野)		2
		演習・実習(他の教育研究分野)		2
計			30	

(注1)本計画書において「題目」とは、「研究方法論基礎」や「研究方法論応用」のようなオムニバス形式の「授業科目」における個々の授業内容(タイトル)又は授業そのものを指す。

なお、学問の急速な進展や学問を取り巻く時代状況の変化に対しては専門科目の再編成により対応する。

社会環境生命科学専攻の人材養成目的並びに今回の改組に伴う変更点は以下のとおりである。

本専攻では、21世紀の医学・医療が抱える問題を人権擁護・生命倫理の観点から捉え、研究方法論の構築を通して解決の道を模索する。また、全ての人々に保証されるべき生命と健康を脅かす環境問題、地球温暖化に伴う医学・歯学・薬学的問題、並びに新興・再興感染症など、地球規模で取り組むべき課題への解決策を探究出来る、高度な専門的研究指向能力を備えた医療人を育成する。さらに、確実に到来しつつある長寿社会における、社会構造並びに疾病構造の変化に対応した医療を探索することが出来、健康の意味と尊厳ある生活とは何かを思考することのできる人材(薬学系においては高度専門薬剤師、pharmacist-scientists)の養成を目指す。

今回の改組にあたっては、生体制御科学専攻の教育・研究基盤を補強するため、従来本専攻に参画し、遺伝子発現調節機能や細菌における蛋白質毒素の発現調節機構、蛋白質毒素の生理活性研究を専門分野とする教員の「遺伝子機能化学分野」を生体制御科学専攻に移動すると共に分野名を「生物情報機能学分野」に変更した。同時に、環境問題、地球温暖化に伴う医学・歯学・薬学的問題、並びに新興・再興感染症などの課題への解決策を探究するという本専攻の教育・研究基盤を補強し、本専攻におけるpharmacist-scientistsを養成する領域を補強するため、有機合成手法を基盤に新規抗マラリア薬、抗がん剤、抗菌剤等の医薬品の分子設計研究を専門分野とする教員が所属し、従来、博士後期課程創薬生命科学専攻に参画していた「医薬分子設計学分野」を本専攻に移動させた。これらの移動によってトータルとして本専攻の教育・研究基盤は補強され、「遺伝子機能化学分野」が本専攻から抜けることによって、本専攻の人材養成能力が落ちることはない。

また、本専攻に関しては今回の改組に際して、「長寿・社会医学大講座」を「総合社会医科学大講座」へと名称変更する。その他には入学定員の変更及び授与する学位の追加以外に大きな変更はない。

(2)教育課程の特色

本博士課程における教育課程の特色は、平成13年度からの本学大学院医歯学総合研究科並びにこれに続く平成17年度からの大学院医歯薬学総合研究科がこれまでに実績をあげてきた共通コア科目(研究方法論基礎・応用と課題研究)を、6年制薬学部出身学生が合流し参画する改組課程においても同様にコアカリキュラムと位置付け、これらと専門科目中の主科目の講義・演習・実習により先端的研究方法を習得させ、課題探究能力及び問題解決能力を重点的に養う点にある。また、共通コア科目中の研究方法論基礎・応用及び専門科目中の副科目で他専攻及び歯学系を含む他の教育研究分野の授業科目を履修することにより、医歯薬学融合型である本研究科の特色を十分生かした学際型教育を達成できることも特色の一つである。

既存カリキュラムは、総合研究科博士課程として博士(医学)、博士(歯学)並びに博士(学術)を授与するに必要十分なものとして編成され、これまでの6年間に大きな実績を上げてきた。今回、授与する学位として博士(薬学)を加えるに当たり、この既存カリキュラムの資格を要することなく引継ぎ、授業科目あるいはその中の題目として博士(薬学)の取得を目指す学生にとって要求の高いものを新たに追加することで対応するべきと判断している。すなわち、「研究方法論基礎」、「研究方法論応用」の開講題目、「課題研究」授業科目および「専門科目」の数を薬学系を中心として増やし、博士(薬学)の取得を目指す学生にとって必要十分ものを設定する。一方、これらは医学系及び歯学系の学生も受講可能であり、双方にとって極めて有益かつ有効な改善手法となっている。あえてカリキュラムの基本構造を変更しないことにより、薬学系を中心とした改組に伴い、医学系ならびに歯学系にとって副科目の選択など双方向に授業乗り入れが可能となる。これこそが総合研究科のあるべき姿であり、3つの学系の総合的かつ学際的教育・研究を推進させることになる。

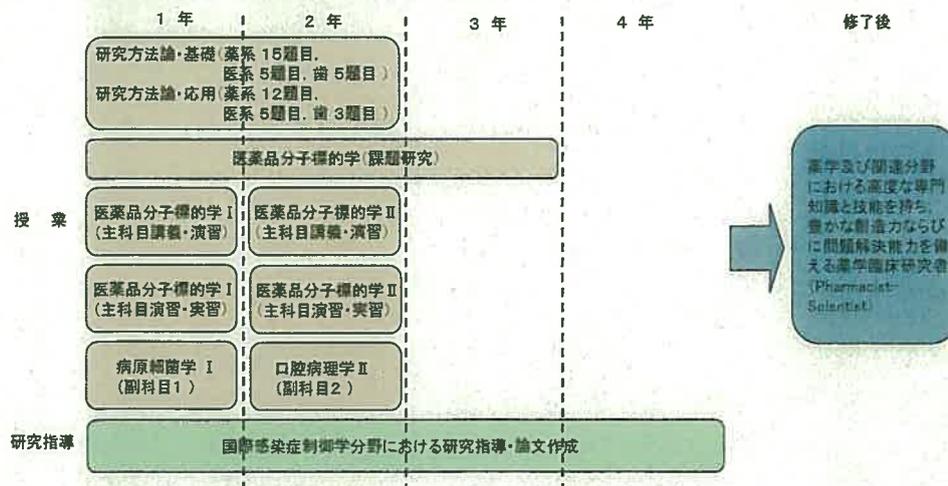
(3)各コースにおける履修のモデル例

A. 一般コース

a) 養成する人材像:薬学臨床研究者

教育研究分野を国際感染症制御学とした場合を例に挙げた。

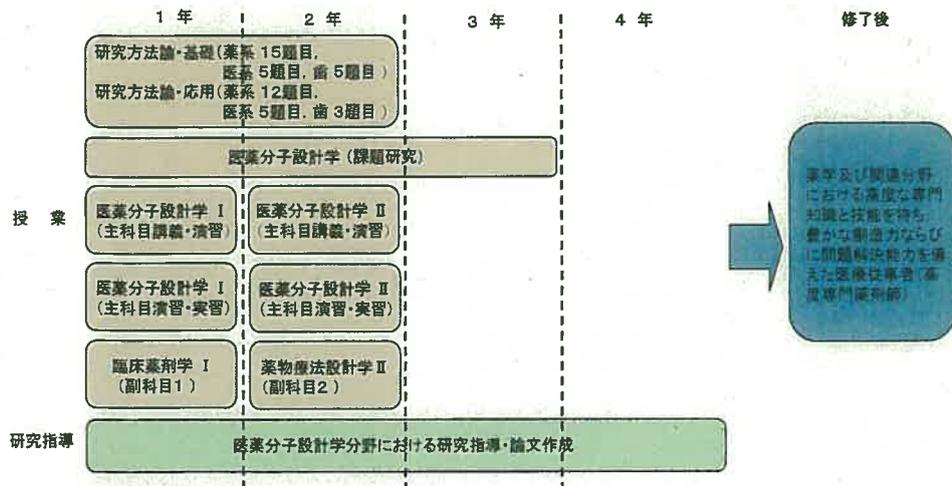
共通コア科目(研究方法論基礎・応用並びに課題研究)と専門科目の主科目により薬学臨床研究者に必要な課題探究能力及び問題解決能力を重点的に養う。副科目1としては同一専攻内医学系の病原細菌学を、副科目2としては病態制御科学専攻内歯学系の口腔病理学を履修する。研究方法論基礎・応用並びに課題研究のセミナー、専門科目である副科目1、2で歯学系教員担当の授業を受講することにより融合型教育を受け、薬学臨床研究者に必要な薬学のみならず他の医療系における高度な専門知識と技能を身につけることが可能となる。



b) 養成する人材像:医療従事者(高度専門薬剤師)

教育研究分野を医薬分子設計学とした場合を例に挙げた。

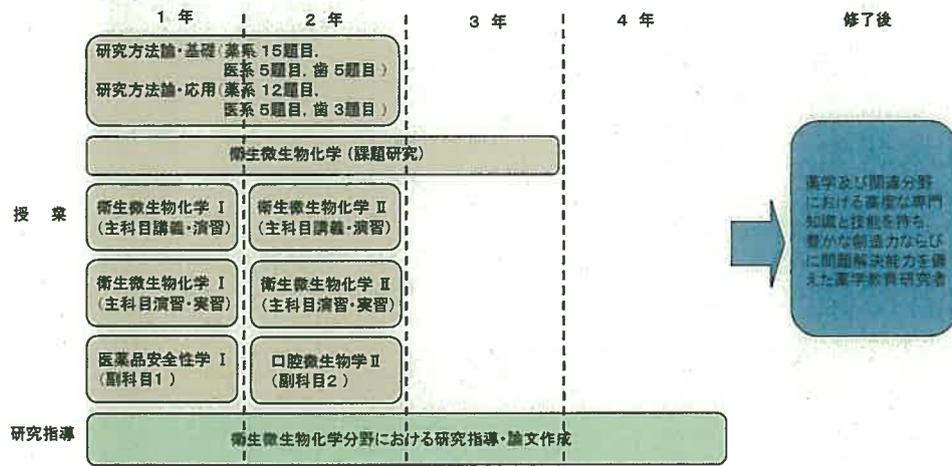
共通コア科目と専門科目の主科目により高度専門薬剤師に必要な課題探究能力及び問題解決能力を重点的に養う。副科目1としては病態制御科学専攻内医学系の臨床薬理学を、副科目2としては病態制御科学専攻内薬学系の薬物療法設計学を履修する。研究方法論基礎・応用並びに課題研究のセミナー、専門科目である副科目1で歯学系教員担当の授業を受講することにより融合型教育を受け、医療従事者(高度専門薬剤師)に必要な薬学のみならず他の医療系における高度な専門知識と技能を身につけることが可能となる。



c) 養成する人材像:薬学教育研究者

教育研究分野を衛生微生物化学とした場合を例に挙げた。

共通コア科目と専門科目の主科目により薬学教育研究者に必要な課題探求能力及び問題解決能力を重点的に養う。副科目1としては他専攻内薬学系の医薬品安全性学を、副科目2としては同一専攻内歯学系の口腔微生物学を履修する。研究方法論基礎・応用並びに課題研究のセミナー、専門科目である副科目2で歯医学系教員担当の授業を受講することにより融合型教育を受け、薬学教育研究者に必要な薬学のみならず他の医療系における高度な専門知識と技能を身につけることが可能となる。

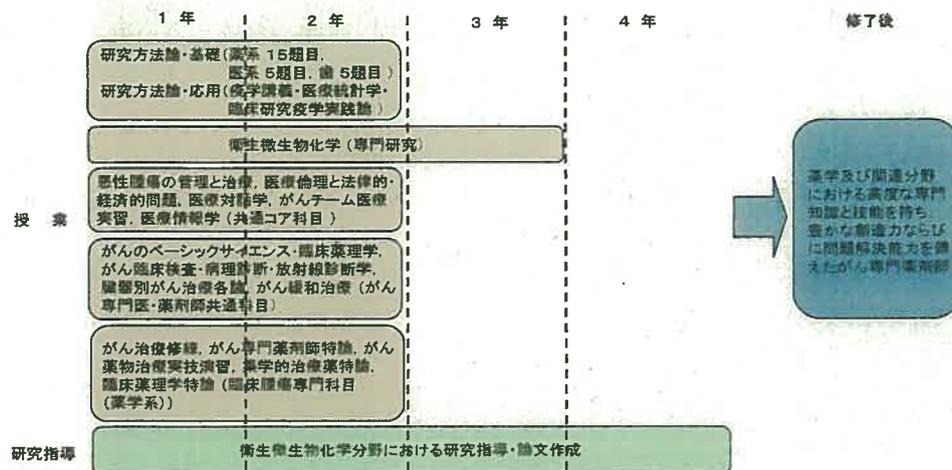


B. がんプロフェSSIONALコース(薬学系)

教育研究分野を衛生微生物化学とした場合を例に挙げた。

本コースでは専門研究によりそれぞれの専攻の人材養成目的に合致した研究を実施するとともに、臨床腫瘍専門科目(薬学系)、がん専門医・薬剤師共通科目及びその他のコア科目等を履修し、学位及びがん専門薬剤師の資格の取得を目指す。

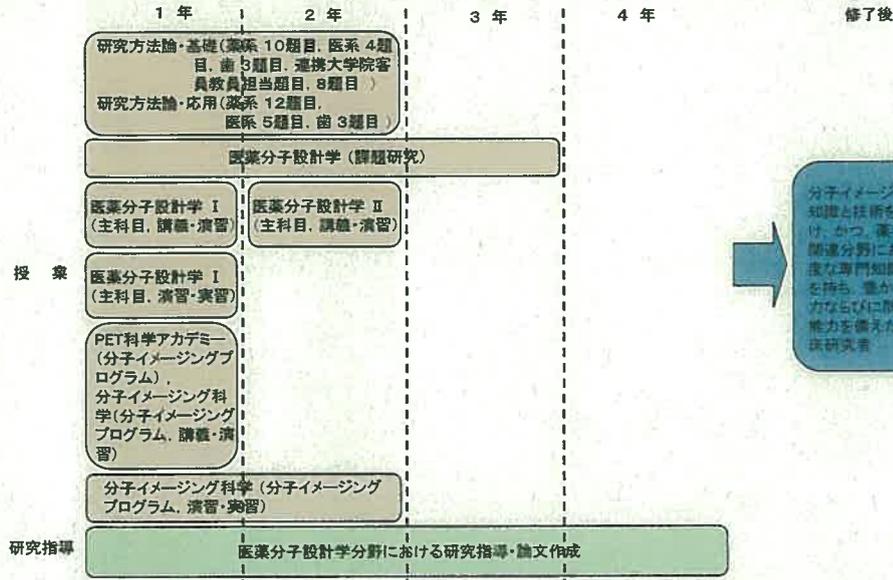
研究方法論及び専門研究により課題探求能力及び問題解決能力を養うと共に、がん専門薬剤師育成に特化したカリキュラムを履修することにより、専門職に必要な専門的臨床能力、チーム医療や臨床研究の能力をともに身につけることが可能となる。



C. 分子イメージング教育コース

教育研究分野を医薬分子設計学とした場合を例に挙げた。

共通コア科目と専門科目の主科目により薬学臨床研究者に必要な課題探求能力及び問題解決能力を重点的に養う。また、研究方法論基礎・応用並びに課題研究のセミナーで歯学系教員担当の授業を受講することにより融合型教育を実施し、薬学臨床研究者に必要な薬学のみならず他の医療系における高度な専門知識と技能を身につけ、これに加えて、分子イメージングプログラムにより分子イメージングの知識と技術を修得することが可能となる。



卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>・修了要件は、4年以上在学し、必修科目14単位(共通コア科目:研究方法論基礎5単位, 研究方法論応用4単位, 課題研究5単位), 選択科目16単位以上(主科目:所属する教育研究分野の講義・演習4単位, 所属する教育研究分野の演習・実習8単位, 副科目:他の教育研究分野の講義・演習又は選択プログラム4単位)を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、研究科の行う学位論文の審査及び最終試験に合格することとする。(一般コース)</p> <p>・がんプロフェSSIONALコース(薬学系)を履修する者は、必修科目30単位(共通コア科目:研究方法論基礎5単位, 研究方法論応用6単位, 専門研究4単位, がんプロ共通コア科目3単位, がん専門医・薬剤師共通科目4単位, 臨床腫瘍専門科目(薬学系)8単位)を修得すること。</p> <p>・分子イメージング教育コースを履修する者は、必修科目22単位(共通コア科目:研究方法論基礎5単位, 研究方法論応用4単位, 課題研究5単位, 分子イメージング教育コース専門科目8単位), 選択科目8単位以上(所属する教育研究分野の講義・演習4単位, 所属する教育研究分野の演習・実習4単位)を修得すること。</p>	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分 ※1

※1

○次の授業科目については、135分授業で実施。

- ・研究方法論基礎 5単位 一般コース
 - がんプロフェSSIONALコース(医学系)
 - がんプロフェSSIONALコース(薬学系)
 - 分子イメージング教育コース
- ・研究方法論基礎 3単位 臨床専門医コース(医学系)
- ・研究方法論基礎 2単位 臨床専門医コース(歯学系)
- ・研究方法論応用 4単位 一般コース
 - 分子イメージング教育コース
- ・研究方法論応用 2単位 臨床専門医コース(歯学系)